

**ダイキン工業株式会社 2019年3月期第3四半期決算
アナリスト・投資家様向けテレフォンカンファレンス 質疑応答
(2019年2月13日)**

Q：中国空調事業について、住宅用市場・業務用市場それぞれの需要動向と今後の見通しは。市場環境がかつてないほど厳しい状況にある中で、どのような対策を打っているのか。

A：住宅用市場においては、政府の不動産投機抑制政策により、当社の強みである住宅用マルチエアコンの販売対象市場となるスケルトン住宅が、特に大都市で建たなくなっている。これに対し、昨年秋から内装付住宅や更新需要に応じた商品をラインアップしている。一方、地方都市では二桁以上の市場成長率を維持しており、住宅用マルチエアコンなど高級機種需要も引き続き伸びている。引き続き、地方都市への販売網の展開と販売拡大を加速していく。また、小型のルームエアコンでは、市場流通在庫が4千万台程度溜まっていると言われており、その影響で需要は落ちていると考えられるが、当社の中国空調の売上高に占める小型ルームエアコンの構成比は10%程度であり、影響は限定的。業務用市場においても、公共投資が減少し中大型ビル向けの需要が落ち込んでいるが、リニューアルなどで需要が比較的堅調な店舗向けの販売強化やインターネットに接続できる「インテリジェントVRV」など差別化商品の拡販を図っている。

1月以降も事業環境は厳しい状況ではあるが、矢継ぎ早に対策を打っていく。

Q：グッドマン社の新工場への生産移管について、残り1工場の移管を遅らせることによる米州空調事業の利益率改善の計画への影響は。生産移管の完了予定はいつか。

A：米国での需要が堅調に推移していることから、製品供給を安定的に行い、機会損失を起こさないことを最優先に考え、当面、旧工場の操業を続けることとした。これまでお話ししてきた、2019年度から2020年度にかけて営業利益率を改善し、10%に近づける計画は変えていない。生産移管のスケジュールは現在再検討している最中だが、遅くとも2019年中には完了させたい。

Q：主要通貨の為替レートは前年度と変わらないが、為替でマイナス影響が出た要因は何か。

A：上期に引き続き、新興国通貨のクロスレートの影響がアジア域内や欧州域内でのグループ内の輸出入によって生じた。

Q：設備投資の進捗や固定費増加の進捗が計画よりも弱く見えるが、計画の見直しをしているのか。

A：将来を見据えた先行投資のテーマや案件は計画通り進めている。当初計画を立てた段階から比べ、実行段階においては、案件ごとにより内容を精査し、効率化を図ったり、節約したりした結果、抑制できている。

Q：化学事業について、半導体・自動車市場に陰りが見える中、好調が続いた要因は何か。

A：全体として半導体・自動車市場向けの売上が好調を牽引した。今期については計画を達成できると考えている。